



わか草

東京都立東部療育センター
 院内報 第5号
 東京都江東区新砂3-3-25
 電話 03-5632-8070
 印刷 東部療育センター
 年4回 発行



東部療育センターを支えるもの 東部療育センター 事務長 中村 弘

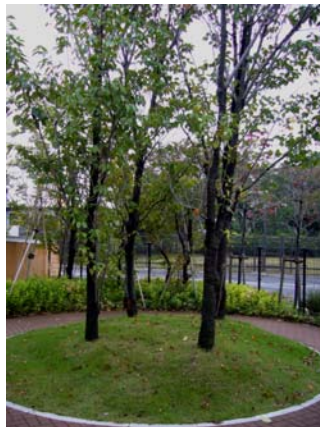
東部療育センターは、開設して二年を迎えようとしています。東京の東部地域に長い間望まれていた重症心身障害児(者)の方々への療育の拠点として、また、特に専門の医療と手厚い介護が不可欠な超(準)重症児の療育を担うことを使命としていることをあらためて受け止めたいと思います。特に超重症児(者)への療育は、重症児療育の主要な課題であり社会全体として受け止めていくべき課題でもあります。この二年間、センターの開設に関わってきた人達の努力と業績に敬意を表します。私たちは多くの優れた先人たちの教えに学び、ご本人・家族を中心に療育に関わる人達が協力し支えあいながら、利用者の皆様のより良い療育が実践できるようさらなる努力が求められています。

フはさまざまな職種に分かれています。だからこそ専門性の高い療育が可能となりそれが実践できるのですが、私たちの支えているものは命に対する愛おしさではないでしょうか。現実の日々の仕事の中では、改まって療育観を問われることも少ないし、そのような感覚も薄れがちです。すべての職員が時々自ら確認したいものです。センターの運営にはさまざまな課題はありますが、日々利用者様が安心して過ごせる医療や看護生活のサポートが出来、このような環境を提供してくれている社会に感謝したいと思います。東部療育センターが、超(準)重症児の先駆として期待に応え、都民はかりでなく全国の重症児者の皆様、ご家族にとつて貴重な財産となるよう努力を積み上げたいと思います。

重症児の療育の分野は、ほかの福祉や医療の分野とは少し違うと感じます。それは、当会の「最も弱いものをひとりももれなく守る」という原則に深くつながっているのではないのでしょうか。命についての受け止め方とか、生きていくうえでのそれぞれの哲学のようなものが療育者たちを支えているのではないかと思えます。私自身福祉・医療分野の仕事に携わって期間が三十年以上にもなりますが、命の重みをしっかりと受け止めることが仕事の基礎にあり、またそのことが日々感じられるのは重症児者の療育分野と感じます。二十年ほど前の夏、ある施設に勤めていたころ、重症児の男の子を抱っこしていたとき木立からこぼれる初夏の日差しとそよ風を受けてその子はただひたすら、私に身をまかせていました。このとき私はこれが命なのではないかと感じたことを鮮明に記憶しています。医師、看護師をはじめとした療育スタッフ



センター裏にある
 紅くつき始めた街路樹
 (10月末撮影)



センター中庭で落ち葉が
 目立ち始めました。
 (10月末撮影)

病棟活動紹介

(二階南病棟)

なのはな

今回は、なのはな病棟で週末に行っているエステタイムをご紹介します。エステタイムとは、整容を目的とした時間で、女性であれば顔のパックを中心としたお肌のお手入れ、男性であれば鼻パックに眉毛カットなど、女性はより女性らしくなるために、男性はとにかく女性にもてるために？など、目的は色々ですがみんなで賑やかにしています。利用者様の方々の反応は、顔パックを貼られ、ニコニコしながら剥がした後のツルツルお肌を楽しみにしている人、じっと固まったまま動かない人、職員から「モテモテになるよ」と言われ、にやにやしながら妄想にふける人など様々です。なのはな病棟では、幅広い年齢の方々が生活していますが、老若男女を問わずおしゃれをするというのは、日常の生活に良い刺激を与えるものだと思います。今後も、みんなで「いい男」「いい女」を目指していきたいと思っています。最後に、廊下などで眉毛がきりりと整った方を見たら、「エステタイムだな」と思ってください。



なのはな病棟
エステタイムの様子

(二階西病棟)

こすもす

我が二階西こすもす病棟での活動は、運動、創作、感覚、音楽の四種を行っています。運動では、トランポリン、バランスポード、活動の中でも一番盛り上がる風船バレー（なぜかという看護師長がバレーの選手だったので）、感覚では、フィンガーペインティング、意外に好評だった、きもだめし、みんなが好きな手浴、足浴、とてもリラックスします。音楽では、六十年代フォークソングを歌ったり（古！）、童謡を始め、アイドル、はたまた、演歌まで、多彩なCDを聞いて楽しんでいきます。特に創作活動には力を入れていて季節のかざりを作ること（今年は春には鯉のぼり、夏は花火、秋はアクセサリー）を主に行っています。みんな綺麗に仕上がりました。また、テラスでは、ナス、トマト、大葉、イチゴなどを育てて収穫したり、天気の良い日は、もちろん散歩で外気浴、支援科、看護科のスタッフが共に力を合わせ、利用者の皆さんに楽しんでいただける活動を日々取り入れています。



こすもす病棟
作品展示

(三階南病棟)

ちごゆり

毎日の療育活動と同様、学齢前の利用者様を対象に一日三分間の幼児グループ「ちごゆり保育園」の活動を展開しています。目的は、愛着関係の確立を目指し、スキンシップを大切に、毎日同じ歌で始まりを知らせ、ふれ愛りリラックス体操で自分の手足を認識すると共にリラックスを図り手遊びの歌に合わせて療育者とのやり取りを通して、安心感や満足感という感情を育てました。

毎日同じ遊びを、同じように繰り返すことにより、利用者様の笑顔が引き出せたと共に、次の遊びへの期待感が表れてきました。

今後も同じ遊びを毎日続け、より多くの笑顔と、自主的な行動を引き出せればと考えています。

かわいい笑顔に会いに来てください！
そして一緒に遊んでください！



ちごゆり保育園の様子

(三階西病棟)

ひなげし

今回は水曜日や週末に全員が集まる全体活動の中から誕生日会を紹介させて頂きます。

第三日曜日の昼下がりになる「テイルーム」には全員の顔が揃います。もちろん始めは祝福の歌と拍手。そして各自が生まれた年や当日の出来事などの紹介。思わず「懐かしい」の声をもらすのは「ご本人様よりもご家族様と年を隠したスタッフ達?!」しかしここは当時の流行歌やご本人様の好きな歌を皆で唄い盛り上がり、いよいよ恒例のサイコロゲームへ突入します。

皆さんに順に一生懸命サイコロを転がして（軍椅子から落とす等して）頂き、出た目ごとに用意された指示に注目・・・誕生日者と握手「スタッフに囲まれちゃホヤされる」「物真似をする」「皆で笑っ・・・なかなか思い通りに出てくれない傾向の強い？三西のサイコロと、時には変てこな指示のお陰で病棟は笑いに包まれ、あっという間に時間が過ぎます。締めは「ご本人様にキーキが、他の皆さんにも素敵なおやつが待っています。



サイコロゲームで
使っているサイコロ
です。

つうしょ

通所は週五日のうち、個別活動を主としていますが、月曜日と金曜日の午前中を利用者様の方全員で行う全体活動の日としています。個別活動においては、利用者様の方の個々のニーズに合わせて、散歩・ROMEE x. 等を行っています。全体活動では、運動・音楽・感覚・創作活動の四つを柱とし、その他に季節の行事、イベント（ミニコンサートなど）を取り入れて、通所にいる時間を十分に楽しんでもらえるように考えています。

中でも、運動活動では多くの遊具を用いて、ムーブメント活動を定期的に行い、ムーブメント法のゴールである、利用者様と援助者（スタッフ）との共感を基盤として、健康と幸福感の達成を目指し、取り組みを行っています。



芝生でパラシュートを楽しんでいます

新人紹介

今年から、当センターへ新しく就任された方の紹介を致します。今号は、地域療育支援室の鈴木さんと言語聴覚士の飯塚さんです。

今年六月に入職いたしました鈴木と申します。今まではリハビリテーション病院でソーシャルワーカーとして勤務しておりました。学生時代より療育分野に関心を持っていましたため、こちらで勤務できることを嬉しく思っておりますが、療育に関する知識はまだ不十分で分からないことも多く、一つ一つ勉強している最中です。

先日、ある講習会を受講した際に全国各地の療育機関の方々とお話しする機会があったのですが、施設・地域によってそれぞれカラーがあると感じました。東部療育センターがこれからのようなカラーになっていくのか、そして私もそれを担う一員になれるよう励んでいきたいと思えました。よろしくお願いたします。



寒さにめげずに中庭こぼれていたゆうびポーチュカ

平成十九年八月から診療部リハビリテーション科で働かせていただいております言語聴覚士の飯塚純子と申します。私はこれまで、民間のことはの教室で発達障害全般のお子さんを対象とし、言語臨床を行って参りました。

未だ知識や経験も乏しいのですが、お子さんのよりよい発達を支援するために新しいことを取り入れ、自らも創造していきたくと考えています。お子さんの「楽しい」「知りたい」という気持ちを大切に、言語・コミュニケーションへの意欲の高まるような関わりができればと願っております。また、コミュニケーションが円滑に進むような支援していきたく思っています。一生懸命勤めさせて頂きますので、何卒よろしくお願申し上げます。



中庭で実ったヒメインゴ



ヒメインゴ

NANDAは北米看護診断協会の略であり、看護診断とは「実在または潜在する健康問題／生活過程に対する個人・家族・地域社会の反応についての臨床判断である」と定義されています。看護の歴史は古いのですが、今まで看護問題の表現は、看護師個々に任されてきました。そのため「同じ言葉で表現されていても表現しようとした現象が異なる」というようなことが起きていました。このような状況を改善するために「標準化された共通言語」として開発された中のひとつが、NANDAの看護診断です。米国の看護師たちの実践を元に作り出され、日本には一九八〇年に紹介されました。（現在も開発中です）従来の看護ケアプランの中で、「看護上の問題」と称していた部分に、NANDA看護診断（診断ラベル）が使われます。世界中の看護師が共通言語、しかも標準化された共通言語を使って看護実践を明確化すること。それが看護診断を使用する意義であり、カルテ電子化に向けても共通言語は必須であると考えています。

Cutting edge

NANDA看護診断って何？

行事報告

平成十九年六月から十一月までに行われた院内の行事、オータムフェスティバルとバスハイクについてご報告いたします。



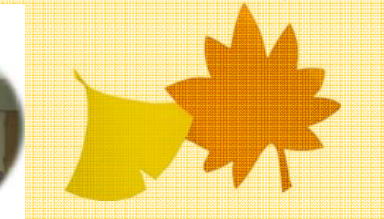
オータムフェスティバル

十月二日午後、第二回オータムフェスティバルが開催されました。初めてとなった前回の反省を活かし、多くの部屋を活用しながら院内のスタッフ皆の協力で運営しました。各催し物の担当者は前日まで準備に追われて不安もありましたが、当日は昨年と違い天候にも恵まれ、どのコーナーも大盛況！利用者様、ご家族様の熱気と笑顔に包まれました。スタッフの演奏や分教室の先生方の和太鼓、外部ボランティアによる。ピエロの練り歩きに眼がキラキラ！仮装写真館は試着に、写真の見せ合いにワイワイ長蛇の列！喫茶ではチケット三枚でのおやつを選ぶかキョロキョロ！射的ゲームは狙いをつけジロリッ！その他に作品展もありました。あっとい間の二時間は楽しかったけれど、もう少し長く…全部じ

つくり回りたい…とのご意見も。また一年間よく検討したいと思えます。でもあの晩の利用者の皆様はどなたもやはり疲れたようで満足気なお顔で熟睡しておりました。



迫力のある豊年太鼓
(墨東養護学校かもめ分教)



なのほなバンドの演奏
フォークソングが心地良いね
(病棟スタッフ)



たくさんの楽器を使っ
たアンサンブル演奏
(リハ科スタッフ)



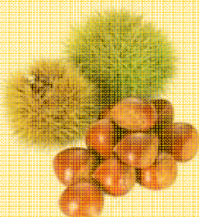
的あてのアトラクション
うまく当たるかな～



素晴らしいパフォーマンス
を披露してくれたピエロ



大盛況だった喫茶コーナー

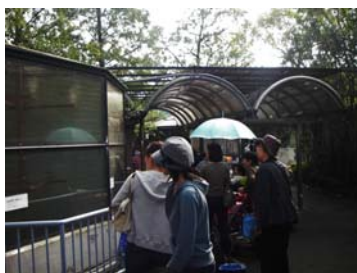


味覚つりのアトラクション
→ お母さんと一緒に釣ってる最中で



バスハイク

十月三十一日の第三班バスハイクで行船公園に行ってきました。行船公園には小学生や幼稚園の子供達の元気な声に驚いている利用者さんもいました。普段は触れる事のないうさぎやモルモットの感触やセンターの中の生活だけでは感じることが出来たと思います。参加していた利用者様やそのご家族様の笑顔を見ることができてとても嬉しかったです。



行船公園にて
動物を見学中です。

編集後記

わか草第五号をお届けします。オータムフェスティバルは昨年と開催方法が変わり、密度の濃いイベントが二時間開催され、あっとい間でした。皆様ご感想はいかがでしたか？地域の夏祭りの雰囲気もあり、東部ならではの感じもするすばらしいものだったと私は思っています。準備してくださった方々のご苦労も利用者様や付き添われたご家族などの方たちの笑顔で吹き飛んだことでしょう。これから冬が来ます。今年の夏は暑く長かったので、暖冬で、インフルエンザが流行らないことを祈って、今回の後記を終えたいと思います。